

# 健康 ぷらざ

## 小さな傷が命とりに

はしょうふう  
—破傷風にご用心—

指導：松戸市立病院 副院長 渋谷 正徳

企画：  
日本医師会

No. 293

### 原因は小さな傷がほとんどです

庭いじりでけがをした、野球をされていてスパイクで蹴られた、古釘を踏んだ、このような小さな傷が破傷風をひき起こします。破傷風菌は、あなたの家の庭にも、学校のグラウンドにも、日本中の土の中にいるのです。



### しっかり洗って、傷はふさがないようにしましょう

破傷風菌は空気が嫌いです。小さな砂粒などを残したまま傷をふさいでしまうと、破傷風菌は活動をはじめます。しっかり洗って異物を残さないことと、傷を開いたままにして空気にさらしておくことが大切です。

### 症状と治療は？

破傷風菌に感染すると、けがをしてから1週間ぐらいで、①口があかない、②首がつっぱる、③ものが飲み込みにくい、といった症状があらわれます。そのような症状が一つでも出たら、急いで医師の診察を受けましょう。

毒素を中和する治療を行いますが、重症の場合、背中が弓なりにになり、全身けいれんが起こって、息もできなくなります。人工呼吸器などによる集中治療を行いますが、いったん発症すると死亡率の高い病気です。

### 予防接種が大切です

破傷風は予防できる病気です。ところが、小学6年生の時に受けた三種混合ワクチン（ジフテリア、百日咳、破傷風）の効き目は5年から10年です。40歳以上の人はそもそも予防接種を受けていないので、けがをしたら破傷風トキソイド（ワクチンの一種）の予防接種を受けましょう。